

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立平野支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育自己診断における学校満足度の向上 ・ 地域連携と外部への情報の発信
計画名	質の高い教育をみんなに～音楽で育むライフキャリア～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1. 質の高い教育の提供 （１）キャリア教育の構築と推進 オ 音楽療法の視点と手法を導入した指導法「HIRANO SMCs」の実践、研究、普及 （SMCs = Support with Musical Conversations）
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重度重複障がい児のキャリア教育（ライフキャリアの育成）として「音楽療法」を導入した指導法の確立 ・ 音楽療法を導入した指導による「特色ある地域支援」を確立し、地域支援の充実と拡大を図る
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽療法で使用する楽器（約 50 種類） ・ 楽器収納棚及びケース、楽器運搬用スーツケース
取組みの 主担・実施者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽療法士資格所有教諭及びチームティーチングで取り組む教員複数名 ・ キャリア教育プロジェクトチーム、研究・支援部、共同研究者（音楽療法士資格所有の大学教授）
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 6 年 8 月 5 日、本校にて「令和 4 年度学校経営推進費事業 実践報告会」を開催 ・ 「HIRANO SMCs」（音楽療法の視点と手法の導入のためのハンドブック）の完成並びに校内周知 ・ 地域支援整備事業として、音楽療法の視点と手法を導入した授業の「出前授業」を小学校 1 校にて 2 回実施 ・ 主担者が校内で「出前授業」を 2 回実施 ・ 令和 6 年 9 月 29 日、第 24 回日本音楽療法学会学術大会（北海道）にて発表 ・ 令和 7 年 3 月 1 日、第 23 回日本音楽療法学会近畿学術大会（大阪）にて発表 ・ 令和 7 年 3 月 6 日、校内にて 3 年間の実践研究のまとめを報告
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者向け学校教育自己診断「学校はホームページ等を活用して積極的に情報を発信」の肯定的回答率を 90%、「教職員は子供の障がいを正しく理解して指導」を 97%にする。 ・ 音楽療法による地域支援の継続実施、および新規実施校を昨年度より 1 校増やす。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者向け学校教育自己診断「教職員は子どもの障がいを正しく理解して指導」の肯定的回答率は 98.2%で、評価指標を上回った……………【◎】 ・ 保護者向け学校教育自己診断「学校はホームページを活用して積極的に情報を発信」の肯定的回答率は 75%で、評価指標に届かなかった……………【△】

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽療法による地域支援の継続実施はできたが、新規実施校を増やすことはできなかった……………【△】 <p>⇒ 令和４年度学校経営推進費事業 実践報告会」に小・中学校並びに府立支援学校の教員 32 名が参加、事後アンケートの設問「本報告会の内容を今後の教育活動に活かせると思う」の肯定的回答率が 100%という結果から、府内の公立学校の教育内容の向上に資することができたといえる。</p>
事業まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践を重ねる中で「音楽療法の視点と手法」を明文化（図式化）した。これにより「音楽療法の視点と手法」は音楽の授業にとどまらず、重度重複障がい児の日常生活の指導においても必要な視点と手法であることがわかった。そして、この「音楽療法の視点と手法」を、教職員が指導・支援にあたる際の重要な視点として共有することで、重度重複障がい児の望ましい変容と成長を促進することが明らかになった。 ・ 「音楽療法の視点と手法」が重度重複障がい児の指導・支援の視座として定着することをめざして、従前の高等部での実践を主軸に、他学部並びに他校における実践の普及に努める。